

平成30年度 佐賀市立城南中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂をもち、主体的に学ぶ人」を目指して～	①学習指導方法全般の改善 ②コミュニティスクールの活性化 ③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学習指導方法全般の改善

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力定着	・12月の県学習状況調査において、正答率50%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。 ・『学び合い』の考え方を軸とした授業を実践し、全員が課題を達成することを目指すことによって、学習集団としての高まりと、学力の向上を図る。	・生徒の実態分析をもとに校内研修会や教科部会を実施し、達成に向けて教職員の意識の共有化と実践を図る。 ・『学び合い』の考え方を軸とした授業を全教科で実践する。 ・学級間、学年間の結びつきをより強くするため、段階的に合同授業を取り入れる。
	○生徒指導の充実	・城南魂を身に付けた生徒の育成	・学校評価アンケートにおいて、「相手や場に応じた行動ができています」と回答する生徒の割合を87%以上とする。	・城南魂とは何かについて生徒・教職員に共通理解を図り、全教育活動を通して時宜を得た適切な全体指導や個別指導を行う。 ・問題対応だけでなく、開発的生徒指導の観点に立った指導を行う。

②コミュニティスクールの活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成	・道徳教育を推進することにより、学級・学年・学校という集団の高まりを目指す。 ・JRC活動やボランティア活動の活性化を図り、活動への参加生徒を増やす。 ・教職員の人権意識を高め、生徒が主体となった人権・同和教育を推進する。	・『学び合い』の考え方を軸とした授業実践や学校行事への取組により、相互理解を図る支援を行う。 ・生徒の成長の様子をアンケートやワークシート等により継続的に把握する。 ・募金活動やペットボトルキャップ収集などJRC活動を活性化し、ボランティア意識の高揚を図る。 ・人権集会や人権週間の取組などを通して、学校行事や学年活動において生徒が中心となって活動できるように支援を行う。
学校運営	○情報発信	・HPの更新など広報の充実	・学校行事や生徒の活動の様子、地域との連携の状況を積極的に情報発信し、学校に対する関心を高める。	・HPや学校・学年便りで積極的に情報発信する。 ・公民館に学校便りを掲示してもらい、校区全体への情報発信を行う。 ・地域ボランティアに参加させ、生徒の活動の様子を見てもらう。
	○開かれた学校づくり	・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	・学校に期待されている面をしっかりと踏まえ、地域に誇れる特色ある活動を展開する。 ・フリー参観デーやPTA総会、その他学校行事への保護者の参加率を60%以上にする。	・CS協議内容を十分に踏まえるとともに、小学校と学習・生活面の連携充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・地域の方と生徒がふれあう場の設定を工夫し、地域の声を生徒に聞かせる。

③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・各分掌の業務内容をより効果的に行えるよう、適正化の観点から見直す。 ・職員が勤務時間と仕事内容にゴールを定め、見直しを持って取り組めるよう意識化を図る。 ・職員間で業務の在り方、見直しについて話し合う機会を設ける。 ・職員の組織管理や時間管理、健康管理を始めたマネジメントを着実に実行する。
教育活動	●いじめ問題への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・未然防止のための居場所づくり、絆づくりを行い、いじめゼロを目指す。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。	・情報をいち早くキャッチするために定期的な生活アンケートを実施する。 ・生徒指導体制を強化し、情報交換を定期的(週1)に行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材と連携を図り、早期対応に努める。
	○不登校生徒への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・教育相談担当を中心とした組織的な教育相談体制を確立し、学校全体で欠席者の把握に努める。 ・不登校生徒の早期発見・早期対応に努め、学級復帰を目指す。 ・保護者と連絡を密にし、信頼関係を深める。	・情報交換を密に行い、組織的な支援を行う。 ・定期的な教育相談アンケートやQUアンケート等を活用するとともに、ケース会議を実施して個別に支援を行う。 ・SCやSSW、サポート相談員等や関係機関、地域との連携を強める。 ・専門性をもつ外部人材を活用した職員研修を実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・基本的な生活・食習慣の定着 ・健康・体づくりに向けての意識化	・生徒が意欲的に取り組む部活動の促進と心身の健全な育成を目指す。 ・朝食摂取率を向上させる。 ・定期的に生徒や保護者へ「保健だより」を発行し、健康管理等について知らせる。 ・性に関する指導や防煙、薬物教育の充実を図る。	・部活動と学習の両立を図り、熱中症などの予防促進を行う。 ・朝食摂取の取組を実施する。 ・アンケート等を行い、生徒の実態に応じた活動にする。 ・性に関する指導については、発達段階に応じた指導を関係機関等と連携をとりながら実施する。また、保護者を対象とした講話も行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目